

# 敬老特集

## 生きがいを持って長生き、人生

字の定型詩を年頭に、ただ休まず実作を続けるのみと感じています。

空気も土の色も昨日とはちがう

長谷川栄子さん 85歳

歳時記の中には、すでに廃れて使わなくなったものもたくさんあります。季節ずれなどいろいろ変化していくのだろうと一抹の淋しさとともに期待もしているこの頃です。

素直な写生で叙情の世界にあそぶ

八角晃愛さん 89歳

3代にわたる林業を営み、草木の姿や自然の移り変わりの中でふと見つけた一句は、家の者の喜びでもあります。この喜びを孫たちにも伝えたいと、手伝いを通して俳句のよさを教えています。

俳句のもつ広さ深さが魅力

垣内方筍さん 80歳

長野さんの指導を引き継いで、定年後の人生を詠います。俳句は、文字は少ないが書かれていないところを想像させ、短的に表現する「断言の詩」と言われます。月1回の句会で、人と会話をすることが楽しみです。

生きがいを持った皆さん一人一人が、それぞれのパワーを感じつつ今

会では、一緒に句を詠む仲間を募集しています。山あり谷ありの人生を詩に残しませんか。

今月号のさんむ文芸は、皆さんの句を掲載しました。

問合せ 藤田 ☎(82)62442



毎月の勉強会で

9月15日は敬老の日。厚生労働省の発表によると、日本人の平均寿命がさらに延び、女性にいたっては23年連続世界一という長寿国となりました。市内の65歳以上人口は実に13、877人(7月1日現在)、77歳以上人口にあつては823人を数えます。

元気で生きがいを持ち、いきいきとした日々を過ごす皆さんが頑張っています。

青春時代を戦争の最中に過ごし、余裕の生まれた年月に俳句を詠むこ

とで、自分の生涯の記録としていきいたいという仲間が集まりました。人生の悲喜もごもな思ひ、季節の移り変わりの中に、物の哀れや心の喜びを感じ取り詩にします。

俳句同人「ひまわり俳句会」は、昭和59年に発足しました。今年9月で101歳になる長野さんの指導

で、現在男性5人と女性8人の13人が活動を続けています。

俳句に寄せる思ひを句集「鳴る涛」の抜粋とともにお伝えします。

よく観察して素直に表現したい

笠原美雪さん 90歳

俳句は寝ていても作れるからと勧められて現在に至っています。季節忘れや季語重ねなどの失敗もありますが、良い指導者、仲間に恵まれて最上の喜びを感じています。

句会の楽しみで呆け防止

並木登志さん 85歳

主婦としての役割を終わり、自分の時間を持つことができるようになった折り、友人から俳句への誘いを受けました。紙と鉛筆を持ち17文



皆さんの平均年齢は83才